

～インター新時代に寄せて～



本多プラス株式会社
会長 本多 克弘
(新城市商工会 会長)

新東名高速道路の浜松いなさ～豊田東両ジャンクション(JCT)間55kmが今年2月13日に開通し、その間に設けられた新城(しんしろ)、岡崎東の2つのインター(IC)も同時に開通しました。これにより、御殿場～豊田東の両ジャンクション間200kmがつながりました。実に計画発表以来30年、待ちに待った開通でした。すでに半年余が経過しますが、大きな事故やトラブルもなく、これまでの東名高速道路(豊川インター)との使い分けもほぼ半々に分かれ、渋滞も解消されました。私たちの周囲でも、少しずつ変化が見られるようになりました。

第一に新城から名古屋まで1時間で行けるようになり、タイムディスタンス、時間的距離が縮まりました。「新城～名古屋1時間交通圏」が確立されたわけです。もう「奥三河」「奥座敷」なんて言わせません。「玄関都市」です。新城市も7月から新城↔名古屋間の高速バスの運行を始め、好評を得ています。

また新東名そのものが市内最大の有海企業団地内を走り、そこに新城インターが隣接されています。さらに近くで新たな工業団地の建設も始まっています。

新城はかつて、三河湾にそそぐ豊川(とよがわ)の舟運で栄えました。中流域に位置する新城は舟運の終点であり、同時に馬運に積み替える中継点でした。荷を載せた馬の背が幾重にも広がり、浪(なみ)のように見えたことから、山湊(やまのみなと)、「山湊馬浪(さんそうばろう)」と呼ばれました。

しかし明治、大正と時代が進むにつれて、自動車輸送が発達し始め、舟運・馬運は衰退していきました。戦後、自動車社会は急成長し、今日、完全な自動車社会になっています。今回の新城インターの開通は、もう一度「山湊馬浪」の賑わいを一と期待でいっぱいです。

新城インターとともに、上下線それぞれに長篠設楽原パーキングエリア(PA)が開設されました。長篠・設楽原の戦いが繰り広げられた地域性や歴史性を活かして造られており、大変賑わっています。

このように歴史文化が香り、企業が躍動する新城です。わが本多プラス株式会社の本社および各工場もインター近くにあります。新城インターの開通を機に「インター新時代」を築き上げていきたいと思っています。